

在宅医療を支える病院等との医療連携のあり方について

1 前回の懇談会での意見

在宅医療を担う医師の負担軽減策として、診療所医師と、病院や訪問看護事業所との連携体制構築に関する現状や課題について、地域包括ケア病棟やサブアキュートとしての病院機能等の認知度や活用促進に関すること、また、訪問看護事業所との連携促進に関することなどについてご意見をいただいた。

【主な意見】

- ・サブアキュートの役割を担う病院について、診療所医師に理解してもらうことが必要。連携が必要なケースについては、あらかじめ情報共有をしておくとうれいもスムーズ。
- ・病院医師に在宅医療の実際について理解いただくことが切れ目ない医療連携につながる。病院と在宅医による役割分担と円滑な連携のために、お互いの理解が進むよう、在宅医療の現場を見る機会や、病院と在宅医での意見交換、勉強会の機会などが必要。
- ・心肺蘇生拒否の意思表示をされている方の場合、回復の見込みがある急変でも入院受入れを拒否されることがある。
- ・急性期病院では、在院日数が短く、退院後の生活まで考えた情報を得ることが難しいが、在宅医療をイメージできるよう、院内研修を行っている。
- ・在宅医は訪問看護の役割や具体的な業務について理解をいただいている。
- ・訪問看護の利用方法やケア内容のイメージがつかない診療所医師に対して、研修や啓発媒体などによる活用や連携の促進が必要。
- ・医師会としても病診連携を進めていきたい。また、訪問看護の効果的な活用や円滑な連携促進のために、会員に対して訪問看護についての研修や勉強会など、啓発に取り組みたい。

2 地域包括ケア病棟へのヒアリング

懇談会での意見を受け、事務局により、地域包括ケア病棟の活用状況や病院が考える課題等についてヒアリングを行った。

【主な意見】

- ・地域包括ケア病棟の役割を理解して活用されている診療所医師はまだ多くはない。
- ・入院依頼の際、医療情報以外の介護体制等の情報が不足していることが多い。
- ・ケアミックスとして、一般病棟か地域包括ケア病棟か、柔軟な受入をしている病院もある。
- ・誤嚥性肺炎や骨粗しょう症、大腿骨頸部骨折等に対して、専門職を配置し、嚥下評価やリハビリ等に力を入れるなど、各病院で特色をもった対応が行われている。

3 取組案について

これらの課題に対する対策の一つとして、以下の二つの取組について検討したい。

- (1) 在宅医療を支える病院や訪問看護と、診療所医師との連携促進についての取組
- (2) 急変時等の受入れをする病院と在宅医との連携促進についての取組

※

資料1-2 「吹田市の在宅医療推進に関する課題と対策の方向性」における
取組の位置づけ

資料1-3 病診連携促進のための取組イメージ

4 取組の具体案

- (1) 在宅医療を支える病院や訪問看護と、診療所医師との連携促進についての取組

○目的

- ・診療所医師が、在宅医療を支える病院（地域包括ケア病棟、後方支援病院、サブアキュート病院等）や訪問看護の具体的内容や活用方法等を知り、それらの活用促進と切れ目ない医療連携をはかる
- ・診療所医師の在宅医療への負担感の軽減によって、在宅医療への参入を促進する

○対象、方法、内容

診療所医師に対する「在宅医療を支援する病診連携等」についての啓発（情報提供や研修等）

【伝えるべき内容】

- ・地域包括ケア病棟や後方支援病院のしくみや活用方法
- ・サブアキュートとしての病院機能
- ・各病院の特徴やアピールポイント等
- ・円滑な医療連携のあり方（あらかじめの情報共有等）
- ・積極的役割を担う医療機関との連携
- ・訪問看護の役割や業務、活用方法、連携の実際 など

○論点

- ・診療所医師に理解していただきたい内容は他にないか
- ・各機関での取組の現状はいかがか
- ・各機関で新たに取り組みそうなことはないか
（どのような機会、どのような方法で：研修・啓発媒体）
- ・病院や医師会等、各機関ができることは

(2) 急変時等の受入れをする病院と在宅医との連携促進についての取組

○目的

- ・急変時等の受入れをする病院と在宅医との連携
- ・病院と在宅医との切れ目ない医療連携の促進

○対象、方法、内容

病院医師に対して「在宅医療の実際や病院医師と在宅医との円滑な医療連携のあり方」について啓発（情報提供や研修、在宅医との意見交換等）

【伝えるべき内容】

- ・在宅医療の実際、在宅での支援体制、他職種による支援
- ・急変時やACPにおける病診連携のあり方（DNAR含む）
（治療方針の共有、役割分担、入退院時の適切な情報共有のあり方等）
- ・病院と在宅医で患者情報の共有のあり方

【論点】

- ・病院医師に理解していただきたい内容は他にないか
- ・病院においても在宅医療に関する院内研修など取組が行われてきているが、研修以外でさらに効果的な取組はないか
- ・病院医師と在宅医との意見交換の機会の実現可能性は
（病院ごとに実施するなど、効果的な方法は）
- ・医師を対象としても受講していただけるか
- ・病院や医師会等、各機関ができることは